

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 3 月 17 日作成)

小委員会名	水と緑の公私計画論刊行小委員会		主 査 名：岡村幸二 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：持田 灯 主 査 名：岩田利枝
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会では、公私計画論という観点から、水辺空間の所有・管理・利用等を巡る、公私の多様な主体間の関係とそれに応じた水辺空間のあり方、諸制度・地域的ルール、具体的な水辺空間の計画の方法論等を明らかにすることを目的として、研究成果をとりまとめた出版刊行を行うこととする。</p> <p>初年度：目次構成の確定、事例内容整理を行い、執筆者により原稿とりまとめ。 2 年度：草稿を提出し、出版社から校正原稿を受け取り、最終原稿を作成。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：なし		
	主査：岡村幸二 (建設技術研究所) 幹事：菅原遼 (日本大学) 委員：市川尚紀 (近畿大学)、村川三郎 (広島大学名誉教授)、畔柳昭雄 (日本大学)、上山肇 (法政大学)、青木秀史 (オリエンタルコンサルタント)、飯田哲徳 (建設技術研究所)、小海諄 (日本工営)、田中貴宏 (広島大学)、長屋静子 (流域フォーラム)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2020 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス： なし	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む) 2020 年度、7/31(web), 8/27(Web), 10/2(Web), 11/16(Web), 3 月 17(Web)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	1. (名称) 参加者数 名 (資料名)
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. コロナ禍で会議や調査ができずに、現地サーベイなどは不十分 (70%) 2. 研究成果のまとめ方・刊行物の目次構成は十分に検討できた (90%)
委員会活動の問題点・課題	1. コロナ対応での Web 会議では、議論のまとめが難しかった。 2. 対面の会議ができないことも影響して、研究成果のレベルアップが思うように進められなかった。 3. 環境工学委員会での共同イベントなどを通じて、「公私計画論」の PR をもっと進めていくべきであると思う。

2020 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>・今年度 2020 年度の日本建築会大会論文登録において、「水と緑の公私計画論とマネジメント」小委員会メンバー及び大学研究室学生により、「セッション・水と緑の公私計画論」を 6 編作成したことは、本研究の出版内容をより充実させるうえで有意義だったと考える。</p> <p>・出版内容の骨格をどのような示し方をするかを議論する中で、10 人を超えるメンバーのうち、主要メンバーによる「公私計画論」の「論」をはる展開とするか、メンバー全員が参加しやすいように、「事例中心の目次構成」とするかを何度も議論して、建築学会の研究成果にふさわしい目次構成を最終的に組み立てるように配慮した。</p> <p>・当初、2020 年度を公私計画論の最終年度として臨んだが、コロナ禍の研究活動は十分な取りまとめがはかどらず、同時に進行した書籍化の準備と合わせてもう 1 年の実質延長が必要となった。(新年度の小委員会を 1 年間立ち上げる予定である。)</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。